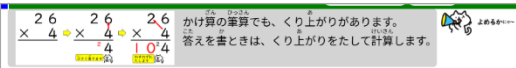



付けたい力：

- ・くり上がりのある2桁×1桁のかけ算の筆算の手順を理解する。
- ・くり上がりのある2桁×1桁のかけ算の筆算を速く正確に計算する。

学習活動	指導上の留意点
<p>1 復習問題で、既習事項を確認する。 T：この問題を計算しましょう。</p> <p>2 めあてを確認する。 T：今日は、筆算の途中にくり上あがりがあるかけ算を学習します。</p> <p>3 26×4の筆算の手順を知る。</p>  <p>T：始めの計算を言いましょう。 C：4×6=24です。 T：「24」の「2」は十の位のマス目の右上に小さく書きます。「4」は一の位のマス目に書きます。では、次にするかけ算を言いましょう。 C：4×2=8です。 T：「8」は十の位のマス目に入りますが、先ほど小さく書いた「2」をたします。「8+2」、いくつですか。 C：10です。 T：「10」の「1」は百の位のマス目、に書きます。「0」は十の位のマス目に書きます。筆算の答えは？ C：104です。</p> <p>4 <さくら math>で、教師と一緒に解く。</p> <p>5 各自で、問題を解く。 T：「26×4の筆算を考えよう」のページを開けましょう。</p>  <p>6 本時のまとめ、ふりかえりをする。 T：今日の感想を発表しましょう。</p>	<p>1 前時に学習した、かけ算の筆算 (23×3のページ) の問題を提示する。 ・テンポよく、5問程度を一緒に解く。</p> <p>2 めあてを板書する (または、大型モニターやプロジェクターで提示する)。 ・「26×4」の筆算を大きく板書する。 ・単元を通して、筆算の線は定規を使って書くこと、数字はマス目に収めて書くこと、くり上りの数字はマス目の右上に小さく書くことを確認する。</p> <p>3 手順にそって、板書していく。 ・くり上がりの「2」は、黄色チョークで書く。小さく書くことを強調する。 ・「10」をいったん十の位のマス目を書いてみせ、「一つのマス目に入る数字は一つ」であることを強調してから、「1」を百の位に書き直すといふ。 ・<さくら math>の「26×4の筆算を考えよう」のページを提示して、一つめの「読みたいにゃー」をクリックする。</p> <p>4 5問程度を一緒に解く。 ・くり上りの数字は青く小さいマス目に入ることに注目を促す。</p> <p>5 机間巡視をして、個別の支援をする。 ・終了時刻を明示する。 ・自信がついたら、「26×4の筆算」のページに進んでよいことを指示する。 ・自信がないときは、ヒントのボタンをクリックして考えることを助言する。</p> <p>6 児童の発言を肯定的に受け止める。 ・次の時間は、ノートやドリルに筆算の計算をすることを予告する。</p>